

さくら

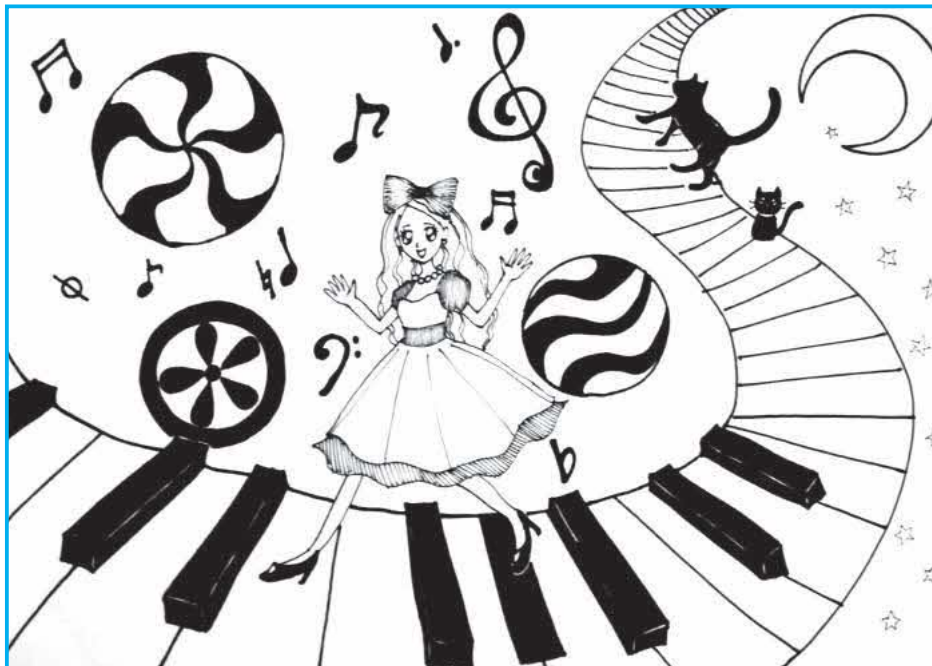
題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 中田 貢弘
編集 広報部会
発行日 2013年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111

目次

東京都民生委員・児童委員大会表彰者名簿	2
合同視察研修報告	3
合同視察研修報告	4
小さな活動シリーズ	5
部会活動報告	6
団体名シリーズ	6
子育て応援団	7
赤い羽根共同募金	8
ぶらり足立	



宮城小4年 田村寿彩 作



「げんき」になります

こども家庭支援センター所長

宮田 資朗

民生・児童委員の皆様には、児童虐待の早期発見・対応に、多大なるご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

ケースワーカーとしても管理職としても福祉事務所で皆様にお世話になり、地域の実情を把握している皆様の力がどれだけ頼りになるか、痛切に感じました。

こども家庭支援センターは4月から教育相談センターと統合し、「げんき」に生まれ変わります。「げんき」の一番の特長は、こどもに係わる全ての相談を受け、支援していくことです。未来を担うこども達が健やかに、そして、「げんき」に成長していくには、地域の皆様の協力が欠かせません。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。



力を合わせて

教育相談センター所長

境 博義

家庭が崩壊し不登校となっていた生徒が、民生・児童委員とのかかわりで家庭生活の基本を学び、自らそれを実践しています。そして本人が自分自身の夢を語るようになり、将来に向かっての行動を始めました。そのことを家族や関係者と一緒に喜べる、そんな支援を、現在一緒にさせていただいています。

「こども支援センターげんき」では、こどもの変化と一緒に喜べる輪をたくさん作っていききたいと思います。本人の成長には、保育や教育での学びだけでなく、家庭や地域での社会経験が必要です。地域の要となる皆様のお力を繋ぎながら「げんき」は、こどもとその家族のげんきを支えてまいります。



第66回 東京都民生委員・児童委員大会



13年目の新たな一歩 11/27 文京シビックホール

東京都知事表彰受賞者として、式典に出席しました。
第五合同の飯塚茂会長が、受賞者1187名の代表として謝辞を述べ、これからの民生・児童委員活動の姿勢について決意を伝えました。私も夫の闘病生活と民生・児童委員の活動の間で、様々な壁にぶつかりました。そんな折、民生・児童委員として正しい信念を持ち続けられ、おのずと結果がついてくるという、中田貢弘連合会長の言葉が、道標となりました。

式典に、続き地域環境戦略研究機関国際生態学センター長の宮脇昭氏による講演の、「いのちの森をつくろう—東日本大震災から学ぶ、共生社会の実現」を聴いて私の故郷を思い出しました。故郷の岩手県釜石市

ではギネス級の堤防も崩壊し、その無残なありさまに茫然としました。無事だった兄夫婦の「命だけは流されなかったよ」の一言に、涙がこぼれました。堤防も、所詮は、作り物。本物の命の森には、かないません。宮脇氏の、「苗から育てた本物の森で命を守る万里の長城を作りましょう」という言葉に、心から応援したいと思いました。

私もこの12年間に、良き仲間、同志、友人が出来ました。相談者から「ありがとう」の宝物もいただきました。「出来る限りのハートで行動したい」と、気持ちも新たに、民生・児童委員として次の一歩を踏み出します。
(13地区 館山慶子 記)

平成24年度 民生・児童委員各種表彰受賞者名簿 敬称略



厚生労働大臣表彰

足立区民生・児童委員協議会

足立区特別感謝状

足立区民生・児童委員協議会

東京都知事表彰受賞
謝辞を述べる飯塚茂会長

全国民生委員児童委員連合会会長表彰 永年勤続民生・児童委員功労表彰

中田貢弘 宮崎十三

区制80周年記念表彰

宮崎十三 金子みき子 中島勝美 對崎千恵子 中浦君枝 榎本正次 宮田壽美子 岸 一夫 高波登利子 伊藤良子

東京都知事表彰 規則表彰

飯塚 茂

全国民生委員児童委員連合会会長表彰 永年勤続民生・児童委員表彰

加藤鈴子 永倉 進 福田久子 篠崎啓子 疋田規子 榎本のり子 梅田伍子 鈴木和男 藤波道子 千葉祐子

全国社会福祉協議会会長表彰

有馬妙子

東京都知事表彰 一般功労賞

和栗きみ子	岩城百合子	宮本勝男	蜂巣トミ	吉田喜美子	鈴木宏往	浅川全代	松本はな子	富澤美保
治田陽子	芦川征子	坂井成一	堀井洋二	梶本三重子	山崎 勝	河邊セツ	内藤久子	清水信子
桐田幸子	村松キヨ	片野富雄	市村 智	山崎道子	伊藤郁子	木島利男	藤田里代	楠美順二
土田信也	安西英子	茂出木幸子	茂出木直美	鈴木房子	梶 宏次	清水洋子	緑川智子	館山慶子
矢萩早苗	小宮良子	原田やよひ	小宮謙治	一条正子	馬場伸子	福岡佳須子	谷古宇真由美	古庄行夫
小宮俊一郎	塩田博子	伊藤徳治	大山光子	當麻文江	下畑靖子			

足立区表彰 社会福祉功労

長塚敏子	柘 孝子	筑波美奈子	大久保義子	関根純子	高橋淑子	北島小夜子	鈴木美歌	清水あけみ
小林勝子	田中礼子	松村文子	川島清美	江川善弘	川上重昭	川島恵美子	秋葉和江	柿崎征一
渡邊照美	森川雅徳	堀田 勲	田村信義	宝田治子	加藤マサ子	川田 浩	原田玲子	大庫悦子
坂井潤子	高野 季	新井幸子	薊 登喜江	竹村ウメ	阿部美代子	小金井堅治	小川佳代子	三崎登子
杉本瑞恵	石井永子	石鍋ヒデ子	芦川直實	草間雅子	高橋登志子	山下節子	塙 君恵	大野慶治
石鍋昭男	林 幸	池嶋清郎	遠山廣江	小松郁夫	栗原和子	畔上美千代		

東京都社会福祉協議会会長表彰

持齋忠伸

民生委員・児童委員宛
災害時一人も見逃さない運動





視 察 研 修



第 一 合 同 福島県いわき市楢葉町を訪ねて

平成 24 年 10 月 20 日午前 7 時 30 分、北千住西口から総勢 79 名を乗せたバスは、いわき市に向けて出発しました。車中、「NPO 法人地域の芽生え 21」の桑原有広さんの災害時に関する研修を聴きながら、楢葉サポートセンターに到着しました。そこで楢葉町社会福祉課の遠藤一幸係長の『災害時要援護者を取り巻く状況と今後の展望』という内容の研修を聴きました。これは私たちにも非常に興味のあるもので、熱心に拝聴しました。最後に研修の前にバスで集めた義援金を贈呈し、研修会は終了しました。

その後バスで車窓からではあるが仮設住宅を見学し、

割烹一平であんこう鍋の昼食でした。それから津波被災地である豊間・薄磯地区を車窓より見学し、帰りのバスでは桑原さんにいろいろ質問しながら、高速で帰路につきました。

有意義な視察研修でした。



(5 地区会長 平林 治 記)

第 二 合 同 松戸市常盤平団地「孤独死ゼロ作戦の取り組み」の現場を訪ねて

中・高齢者の単身世帯の増加とともに、一人暮らしの高齢者の「孤独死」も増加しています。

第二合同では平成 24 年 10 月 27 日に、この問題に平成 14 年から取り組んでいる松戸市の常盤平団地を訪問しました。自治会会長、地区社会福祉協議会会長から、



約 1 時間にわたり実際の孤独死の現場写真を参考に、貴重で大変厳しい現状を伺いました。

常盤平団地は昭和 35 年に賃貸住宅として誕生。戸数 5,359 戸、人口 7,258 人の大規模団

地で、65 歳以上の高齢者が 2,783 人で高齢化率 38.4%と上昇の一途です。この団地では、民生委員が地域自治会と協働で孤独死の未然防止や早期発見と対応への取り組みを行っています。具体的には、①いきいきサロン（商店街での一般住民を含む・有料）②見守り活動（独居高齢者訪問、声掛け等）③ふれあい会食会（70 歳以上の一人暮らしの方・有料）等の活動に取り組んでいます。

現在東京では、多くの人が集合住宅で生活しています。公団ばかりではなく、民間住宅での孤独死発生も考えると非常に重大な問題であります。今回の研修で得た体験を今後の民生・児童委員の活動に大いに役立てたいと感じました。

(18 地区 鶴田晴久 記)

第 三 合 同 千葉県旭市を訪ねて

平成 24 年 10 月 28 日、今にも雨が降りそうな曇り空のなか、私達は 2 台のバスで千葉県旭市へと向かいました。

旭市いいおかユートピアに到着し、10 地区堀口副会長の司会進行で「第三合同視察研修会」が始まりました。中山合同会長からは、大震災当日、都庁での会議に出席中で帰宅困難者となった経験談とともに被災者の方々へ労いの言葉を伝えました。また、視察当日は津波避難訓練中であつたにも係わらず、旭市市民生活課の林徳子主査の協力で、“被災体験を語る”と題し、「いいおか津波を語り継ぐ会」仲條富夫会長のお話を伺うことができました。

涙なしでは聞くことのできない多くの悲しみ、辛さ。なかでも私が一番心に残ったのは孫とお祖母ちゃんの

お話でした。お祖母ちゃんを心配して迎えに行き、避難所へ連れて行った孫に「次に同じ事が起きたら私は何とかするからお前は逃げのびて生きなさい」と諭すお祖母ちゃん。お互いを想いやる気持ち、その心に涙が出てきました。

私達は震災という辛い経験から言葉にはできないほどの想いを胸に刻みました。この感謝の気持ちを忘れずに活動をしていきたいと思う有意義な一日でした。

(11 地区 隈元千代子 記)



さくらバックナンバー（創刊号～）が区役所のホームページから見られます。区役所トップページから検索で「さくら」と入力するとさくら PDF が見られます。

URL は <http://www.city.adachi.tokyo.jp/fukushi/fukushi-kenko/sekatsu/minse.html> 是非ご覧になってください。

広報部会



視 察 研 修



第 四 合 同 日光市の防災体制に学ぶ

足立区の校外施設である日光市の「日光林間学園」で平成24年10月30日に視察研修を行いました。今回のテーマとして

- ① 日光市の防災体制について（危機管理放射能対策室）
 - ② 地域における防災に対する取り組み（市民課）
 - ③ 災害時要援護者支援プランについて（高齢福祉課）
- の講演が日光市の各担当者からありました。

日光市は自主防災組織の結成率が高く、結成促進及び育成に力を入れています。災害時要援護者の把握の方法として、自主防災組織等が要援護者に働きかける同意方式を取り、避難支援者・自主防災会、自治会、民生・児童委員、消防本部などと情報の共有化が図られています。

当日は朝からとても寒く、会場の体育館でイスに座ってわずか2時間の講演ではありましたが、足元からジンジンと寒さが身に凍みてきました。津波被災の避難所の方々のことを思いつつ忘れられない研修会となりました。



何カ月も前から準備された日光市の防災担当者、足立区の担当者、実行委員の方々のおかげで有意義な一日を過ごさせていただきました。（7地区 井上みよ子 記）

第 五 合 同 中越地震から8年…山古志村の「いま」を訪ねる



中越地震から8年の月日が過ぎ、人々の記憶から薄れつつある中、今回の第五合同視察研修では平成24年10月21日～22日に新潟県旧山古志村を訪ねました。

蓬平温泉で現在も旅館の経営を続けている「福引屋」の社長より災害当時のお話を聞きました。宿泊をされていたお客様の安全を守り、救助が来るまでの長い時間を耐えた使命感と恐怖との葛藤。そして、全ての道路が寸断されたために、旧山古志村の人々は全

員がヘリコプターでの避難を余儀なくされました。避難所から仮設住宅への入居にも時間がかかり、その間に命を失った方もいるという体験談を聞き、心が痛みました。その後は、社長の案内で地滑り現場を視察しました。大災害後も地滑りの被害を受けたために、多くの家屋は土砂に埋もれ、数軒の屋根を確認できるだけでした。目の前の想像を絶する光景に言葉はなく、ただただ胸が詰まりました。

最後に、復興に向けて、道路やトンネルを整備している様子も視察しました。私たちはこの大災害を記憶に留め、支援の継続性を理解し、これらの事実を教訓として未来に活かさなければと思います。実り多い視察研修となりました。（江南・新田地区 安西英子 記）

各被災地の民生委員の実践記録を読んで その2

年月が経過してゆくなかで、風化させたくない、相馬市の生々しい状況を以下に抜粋しました。

■ 災害発生初期の個々の体験と組織的対応について

発災から50分後の津波で、海岸部の5000余戸家屋が流出。避難所は市内11カ所に設置、また遺体安置所も新設。避難所は、被災者とライフライン不通による一般避難民とで、過密状態となる。女性消防隊や自衛隊の応援による炊き出し、届いた支援物資で当日の夜をしのぐ。第一原発1号機、3号機の水素爆発後、避難者が次第に増加。仮設住宅の建設始まる。

発災直後、相馬市社協から市内9地区の各会長へ連絡。各会長から地区民生・児童委員への安否確認。津波到来により安否確認は続行不能となる。市社協より「状況把握し報告せよ」と通達。沿岸部の民生・児童委員は、避難し

ていながらも安否確認を実施。また遺体安置所へ身元確認のため、連日通った。

各種団体から届いた支援物資を高齢者世帯などに配布しながら、安否確認を行った。東部沿岸地区の民生・児童委員11人のうち5人の家屋が被災した。各避難所に民生・児童委員もそれぞれ避難していて、連絡を取り合うこともままならなかった。

原発事故後に、避難する民生・児童委員もいて、さらに連携をとることが困難となる。 続く

（6地区 森 春枝 記）



鹿浜第一小5年 永野友香 作

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり



視 察 研 修



第 六 合 同 被災地 福島県いわき市を訪れて

第六合同の秋季視察研修は平成 24 年 10 月 16 日、日帰りにて福島県いわき市薄磯海岸地区をバスで訪問しました。当地は 3.11 東日本大震災の時 10 メートルにも及ぶ津波が沿岸全域に押し寄せ、多数の死者・行方不明者や住宅の全半壊など甚大な被害を受けました。また、放射線被害も無視できないという地域で、すでに 1 年 7 カ月を経過しながらも、復興の進まぬ被災地を目にすることとなりました。

当日は好天でしたが、被災地訪問ということで少々緊張した気持ちでスタートしました。車内でいわき市より前もって送付していただいた刊行誌「いわき市の記録」を事前研修しました。バスが被災地に近づくにつれて、窓の外の光景が大きく変化したのに驚きました。被災地の山六観光センターではスタッフの方から、震災当時の写真を見ながら説明を受けました。その後、被災された方にバスに同乗していただきました。瓦礫

の山と土台だけ残る家並に震災前の思い出を重ねて、涙ながらに復興にがんばっているお話を聞かせてくださいました。目に見える被害だけではなく、目に見えない心の痛手の大きさと深さを感じました。

最後に「訪問してくれてありがとう」のことばが心に残ります。
(第六合同会長 山本祥一 記)



第 七 合 同 被災地 福島県双葉郡広野町を訪れて

平成 24 年 10 月 14 日～15 日、私たち第七合同は被災地、福島県双葉郡広野町へ視察研修を致しました。

初日、車中で佐藤中部東地区担当課長の研修「足立の福祉の現状」と花畑地区の鈴木恒雄委員より広野町津波被害状況の説明がありました。その後、五色沼を散策し昼食、夜は五浦温泉で懇親会をもちました。



翌日、早朝より広野町公民館で研修が行われ、黒田副町長のご挨拶の後、宮崎合同会長、社会福祉協議会有賀常務理

事のご挨拶がありました。

副町長のご挨拶の中で「原発事故後、情報が錯綜し、町全体が混乱した。未だ町民の 1 割、550 人しか帰町していない。事故現場に近いため原発処理の関係者が多数、仮設住宅で生活している。風評被害もあり、今後も原発の不安を抱えながら町の復興を進めていかなくてはならない」と切実なお話がありました。また、宮崎合同会長から広野町へ義援金を贈呈した後、町職員から事故後の対応状況の説明を受け、意見交換をしました。その後、山積した瓦礫置場を視察しました。

今回の研修テーマは「震災時に必要な対応を学ぶ」でしたが、二日間にわたる研修は私達には衝撃的でした。被災地の一日も早い復興を念じつつ帰路につきました。

(花畑地区会長 有馬妙子 記)

民生・児童委員の小さな活動シリーズ ケアセンターつどい島根 納涼祭

島根町会にある「ケアセンターつどい島根」の納涼祭で盆踊りを見せて欲しいと頼まれました。梅島住区センターで民謡を習っている方々の協力で、8 月 9 日 10 日の 2 日間、民生・児童委員 3 名が、昔なつかしい東京音頭や炭坑節など五曲を踊りました。車イスのデイ・ケアの方たちも、スタッフと

ともに、紅白幕のやぐらの廻りで輪になりながら、曲に合わせ手振りで踊り、皆様が楽しそうでした。最後に杉良太郎の「長生きしなはれや」を合唱しました。短い時間ではありましたが、皆様から「ありがとう、来年もよろしく」の言葉をいただきました。

(11 地区 梅田伍子 記・画)



平成 25 年度 民生・児童委員の日 活動強化週間
5 月 12 日～18 日 区役所アトリウムにてパネル展示等を実施します



部 会 活 動 報 告



高 齢 者 福 祉 研 究 部 会

老い支度、していますか？

高齢者福祉研究部会では、「楽しく元気に自分らしく住み続けられる地域づくり」について、その手法や視点を学んでいます。特に本年度は、「病気になっても自分らしく」ということをテーマに「老い支度」や「孤立」について取り上げました。

誰にでもやってくる「老い」、そして「死」。現状をしっかりと把握して「病気」や「介護」から目をそらさず、向きあうことで、自分らしく生活続けることができます。部会では、「からだ」「こころ」「住まい」「お金」「人生」について自分に置き換えて考える機会を設けました。これまで無意識のうちに、目を背けてきた「配偶者との死別」や「自分の病気」等について改めて考え、足立区発行の「老い支度読本」を活用し

ながら、「今自分にできること」を整理しました。人生山あり谷ありですが、最後に「幸せだった」と思えるような「老い支度」をすることが必要だと思いました。

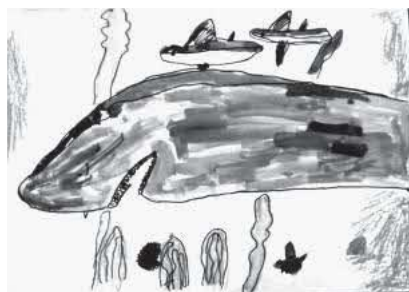


上沼田小3年 松川紋子 作

(部会長 鷺見竹由 記)

障 が い 者 福 祉 研 究 部 会

もしかしたら支援が必要かも 『変わったお隣さん』



鹿浜西小2年 竹内愛美 作

障がい者福祉研究部会のテーマは「障がいの特性の理解」です。特に、身近な人から誤解されやすい障がいに焦点を当てて学んでいます。これまで、当事者や支援者を招き、「視覚・聴覚障がい」「統合失調症」「アルコール依存

症」などを学んできました。特に印象的だったのは、アスペルガー症候群について、当事者からお話をいただいたことです。この障がいはコミュニケーション力、社会性や想像力の欠如が特徴的で「例え話を本気にする」「人の気持ちや常識に無関心」「臨機応変が苦手」など自分の生活を例に出してお話いただきました。「ご近所で『変わっている』『掃除当番をさぼる』『家のごみ屋敷になっている』人は、アスペルガー症候群、ADHDなどの障がいを抱えていることが多い。地域の中で『変わった』人は支援を必要としているかもしれない。」こんな言葉が心に残りました。知らないことで煽られる不安が、障がいをお持ちの方の自立生活を阻害していることが分かりました。

(部会長 中村幸雄 記)

団 体 名 シ リ ー ズ

足立区ボランティア連合会

永い歴史の中で民生・児童委員協議会の皆様方のご活躍には心より尊敬の念を抱いております。

私ども足立区ボランティア連合会は「市民の社会活動参加により、いろいろな立場の人々が交流を深め、人として尊重される明るい健全な社会の実現を図るとともに、各ボランティアの円滑な活動を推進すること」を目的に、任意の団体として活動し続け、今年の秋に28周年を迎えました。より広い視野に立ちボランティア活動の推進に当たっております。

時代の流れとともにボランティア活動への要請も多岐にわたり、ニーズに応えるには各種ボランティア団体、NPO団体等との連携が必要であり、大切と考えています。

昨年5月の第23回ボランティアまつりには足立区民生・

児童委員協議会から初参加いただき、より充実したまつりとなりました。

地域福祉の担い手としてより良い地域社会の実現をめざし、私ども日頃の活動をさらに向上させ、民生・児童委員の皆様とともに立場を超えて協働する機会があれば、それは大きな力となると確信しております。

(足立区ボランティア連合会会長 緑川フミ子 記)



鹿浜第一小4年 君島 玲 作

足 立 区 は 活 動 記 録 提 出 1 0 0 % 継 続 中 で す



あなたは誰かにとっての『隣人』になれますか？



ドキュメンタリー映画『隣人』は、ある児童養護施設の8年を追いました。その主題が「誰もひとりでは生きられない。」副題は「あなたは、誰かにとっての『隣人』になれますか？」です。

さまざまな事情で親と暮らせない子どもたちの最後の拠り所ともいえる児童養護施設。「虐待」のニュースは多いけれど、保護された子どもたちがその後どのように暮らしているか知ることはほとんどない。

トントントン…味噌汁に入れる大根を切る包丁がまな板をたたく音が響く。やがて寝ぼけ眼の子どもたちが「おはよう」と起きてくる。当たり前の一軒家が立ち並ぶ敷地から、子どもたちを学校へ送り出す大人たちが、子どもの髪を直し「行ってらっしゃい」と声をかける…当たり前の日常が人を支えている。

学校から帰れば、子どもたちと保育士との血縁を超えた濃密なふれあいがある。溢れる気持ちを書きなぐったノートに「大好き」の文字の筆圧。保育士さんが「どんなむっちゃんでも大好き」と語りかけるシーンなど、すべての子どもが育つために真に大切なものは何かを考えさせる。

そして映画は、大人と子どもだけでなく、血縁の有無も超え、すべての人は人との関係の中で生きるのだと静かに主張する。人はふれあう必要がある。孤独のまま放置してはおけない。誰かが誰かに心をかけようよ。人は「誰もひとりでは生きられない。」のだから。

まさに〈民生委員児童委員信条〉の「隣人愛」ではありませんか。
（『隣人』企画 7地区 稲塚由美子 記）

児童虐待 子ども3部会（子育て・児童・主任児童委員）活動報告

子どもに深い関わりを持つ、子育て支援研究部会・児童福祉研究部会・主任児童委員部会が「虐待」をテーマに合同部会を2回（7月20日、10月26日）開催しました。

講師には、子どもや家族に対する心理カウンセリングだけでなく、教育医療福祉機関へのサポートを行っている、越谷心理支援センターの秋山邦久所長をお招きしました。

子どもの心には、年齢に応じた発達段

階があります。虐待で傷ついた子どもが、年齢にふさわしい形で大人と関わる事が出来るよう、私たち民生・児童委員は「信頼できる近所のおじちゃん、おばちゃん」として子ども達を見守っていくことが重要だと、改めて感じました。
（主任児童委員部会長 小宮謙治 記）



宮城小3年 岡崎大志 作

～秋山先生の講演より～

子どもと関わる時、相手の「心」を変えるのではなく、自分の関わり方を変えることで、相手の「行動」が変わり、その結果として「心」が変わる。

そのプロセスに関わるのは親だけではない。親が関われない時は、地域の大人たちがその代わりになることが出来る。

足立区立新田学園

赤い空木の葉がおどる舞踏会

七年二組 星 アキラ

もみじの葉赤色つけて恋実る

七年一組 小松菜々香

出られないこたつの中はブラックホール

八年一組 野口 鮎美

心の息も白い霧がなまの朝

九年一組 川崎 裕也

子供らが喜びはわる霜柱

七年二組 手塚 歩

手に乗せる一秒だけの雪の華

八年二組 山口 紗貴

中学生俳句コーナー



赤い羽根共同募金 10月9日 本年度募金総額 1,332,281円



例年10月1日実施の赤い羽根共同募金は、大型台風が東京を直撃したため、今年は10月9日の実施となりました。予定日から1週間以上過ぎていたので、区民にご協力いただけるか不安を抱えながら五反野駅に向かいました。

さて7時30分、声は若干高めのトーンで開始。「いつもは、1日ですよ」と、声をかけてくださる方もいて、多くのご協力

をいただき心配はじきに解消されました。

例年、民生・児童委員が街頭に立つ意味を考えるのですが、もちろん第一は募金を集め直接的に貢献することです。でも、それと同じくらい意義のあるのが、街頭に立つことで「このまちの民生・児童委員は私たちです」と顔を見せることだと思います。さらに元気で明るい声を心掛けていくつもりです。 (6地区 田中礼子 記)

ぶらり足立 シリーズ6

大鷲神社大祭

平成24年10月7日、花畑大鷲神社の大祭が7年ぶりに行われました。

本来は、12年に一度の酉年に「本社御神輿渡御」がありますが、余りにも期間が空いてしまうため、6年に一度の運びとなりました。その6年目に当たる昨年は震災のために延期となり、今年は待ちに待った大祭です。

6日夜には宵宮入れの儀が執り行わ

れ、7日午前7時の宮出しは、昨年の不幸を全て洗い流すかのような雨の中、威勢の良い掛け声と共にくり出しました。御神輿は多くの方々の協力の元、参加された各町会の御酒所を順々に渡し、皆の想いを橋渡しし、絆を深めながら無事に午後6時宮入りしました。

(花畑地区 千葉祐子 記)



銀賞おめでとう 千寿双葉小学校



第31回全日本小学校バンドフェスティバル 11月17日

8月の全員研修会での千寿双葉小学校のすばらしい演奏と楽しい挨拶を覚えていますか？

その金管バンドが、大阪城ホールで開催された「第31回全日本小学校バンドフェス

ティバル」で銀賞を受賞しました。

普段の朝練・夕練に加え、夏休み中も一生懸命練習した成果が認められ、昨年の銅賞より一つ上の受賞です。

(5地区 藪下奈穂美 記)

編集後記

私が民生・児童委員として委嘱後、初めての合同地区協議会で、広報紙「さくら」の創刊が発表されました。私も5年前から仲間に支えられ、「さくら」の編集会議では校正委員として民生・児童委員の広

報活動に取り組んでいます。国語辞典を片手に、脳の老化防止に健闘中です。

(東綾瀬地区 河邊セツ 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校へ順番にお願いしています。また、皆様からの原稿も募集いたします(原稿は未発表のものに限りです)。次号発行予定日7月1日
なお、原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部長	宮本勝男	副部長	川島恵美子	書記	渡邊照美	会計	池田信江	編集	森春枝	校正	秋本雅信	レイアウト	藪下奈穂美	北村信也	編集委員	鶴田晴久	木内信一	加藤宏	松島勝己	阿部美代子	金子千恵子	千葉祐子	校正委員	江川明美	粟野昌子	河邊セツ	井上みよ子	梶宏次	鈴木静江	関根恵子	北川富美子	栗原和子
----	------	-----	-------	----	------	----	------	----	-----	----	------	-------	-------	------	------	------	------	-----	------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-------	------